

Q 高齢者の現状と今後の取組について

金泉婦貴子 議員



A 要介護の方が増えないよう、予防の取組を継続的に実施する

質問一 日常生活圏域ニーズ調査の結果から見えてきたことは。

二 二次予防事業の取組は。

三 認知症施策の現状と推進は。

四 市の特性を生かした取組は。

五 在宅医療・介護の連携体制推進事業の進め方は。

答弁一（市長） 一般高齢者のうちの約4人に1人が要支援・要介護状態に陥る可能性のある二次予

防事業の対象であり、認知機能低下者の割合が高い。介護予防の取組を継続的に実施する必要がある。

二 運動機能向上を目的とした「こっこつ貯筋体操教室」と閉じこもり予防などを目的とした「ますます元気教室」を実施している。

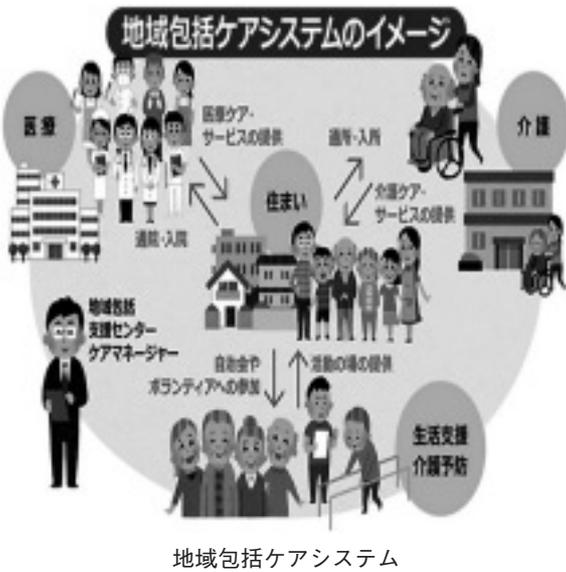
三 認知症地域支援推進員の配置、認知症サポーター養成講座等を行っ

ている。今後は、複数の専門職による支援チームの体制づくり、認知症カフェの拡大等を進める。

四 地域支え合い協議会を初めとした市民の互助の仕組みと連動した生活支援体制事業などを進める。

五 在宅医療推進事業を平成25年度からの3か年事業として坂戸鶴ヶ島医師会へ委託している。28年度以降は介護保険地域支援事業に位置付けて実施する予定である。

◎その他の質問 公共施設等利用計画の今後について



地域包括ケアシステム

Q 鶴ヶ島町史と町屋鎌倉街道の整備

漆畑 和司 議員



A 隣接市との調整・協議を重ねて整備を検討したい

ている。今後は、複数の専門職による支援チームの体制づくり、認知症カフェの拡大等を進める。

質問一 鶴ヶ島町史民俗編「ふるさと鶴ヶ島」に記述のある鎌倉街道に太平洋セメントから冷却水が流れていることへの対応・対策について。

二 事故等に対する対策（簡易鉄パイプの状況）について。

三 ボックスカルパートによる手法と今後の整備手法の考え方は。

四 歴史、文化の考え方について。

答弁一（市長） 工場によると、冷却水は循環使用しており、外部への放流はほとんどなく、水路に流れている水は、工業用水の余りと工場内の雨水を調整池を通して放流していることである。

二 鎌倉街道に沿った水路の一部区間に転落防止用の鉄パイプ等を設置した。さらに安全施設の設置が必要な箇所があれば、対策を講じていく。

三 町屋地区にボックスカルパートを設置すると、下流の坂戸市部分の水路が未整備のため、周辺地域に浸水被害を発生させる懸念がある。上流の日高市及び下流の坂戸市と協議して水路の整備の検討を進めたい。

四（教育長） 郷土の歴史や文化に親しむことは、地域への愛着や誇りを認識する上で、また、心の豊かさを醸成する上で重要である。



ふるさと鶴ヶ島